



公益信託世田谷まちづくりファンド
災害対策・復興まちづくり部門
最終報告会資料

被災地の防災の知恵を
世田谷へ

～東松島市新東名との人・モノ・
情報交流

岡さんのいえTOMO

2015年5月23日

活動目標

被災地の方々と世田谷の岡さんのいへの
課題・知恵を繋げる活動を通して、

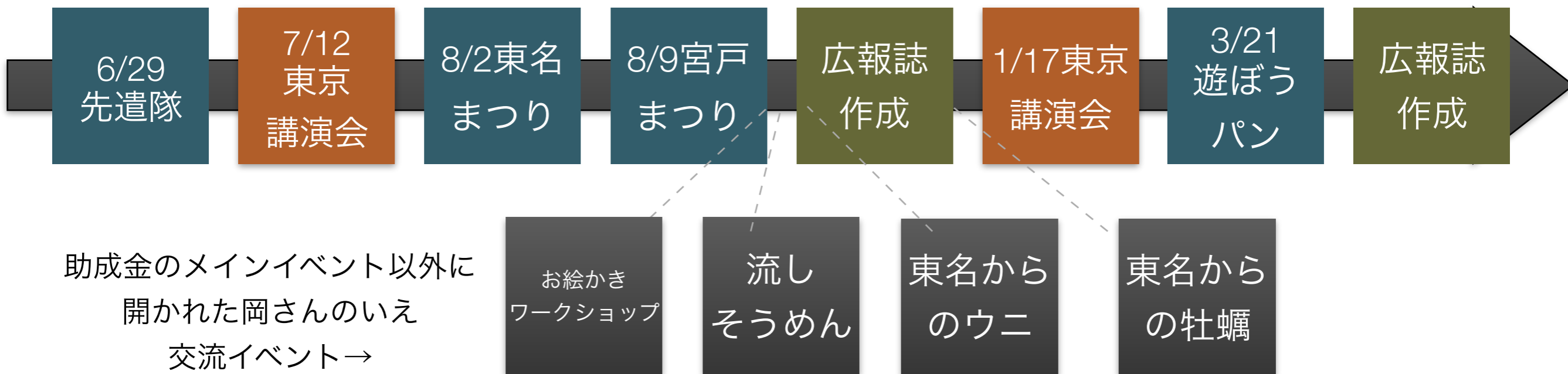
世田谷の知恵で
東名地域の
コミュニティの支援

世田谷区への還元

区民の被災地
支援意識高める

区民の非常時
の知恵の共有

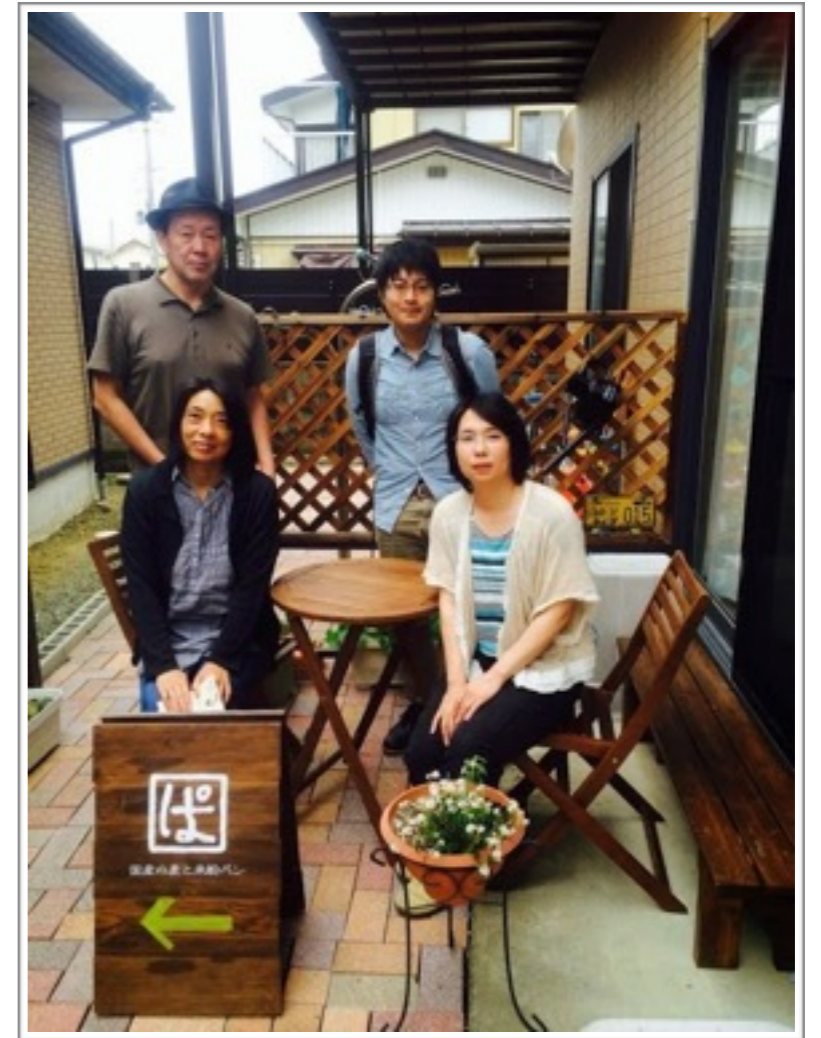
助成金決定後の動き 全体概略



先遣隊による東名視察～

2014年6月29日～30日

助成金決定後、イベントを開催していくにあたって**東名の課題や現状を現場で把握し直接伺うため**、先遣隊が視察に向かいました。



東京での講演会第1回～また、波がきたときに

2014年7月12日

上北沢まちづくりセンターを会場として、仙台在住の冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク プレーリーダー・理事の根本暁生さんと、新東名にてパン屋「ぱぱいやパン」を運営している野田ますみさん、阿部恵さんをお呼びして、**震災時に何が起きたのか、防災時に役立った知恵などをお話いただきました。**



いま、震災を考える講演会
また、波がきたときに
岡さんのいえTOMOと宮城県東松島市東名

7月12日(土) 14:00~16:30
場所 上北沢まちづくりセンター
(世田谷区上北沢4-32-9) 京王線八幡山駅下車徒歩2分

定員・50名(先着順) ※7月9日(水)申込締切 参加費・500円(お茶)
*先着20名様のお申し込みがあった時点で締め切りとさせていただきます。
*プログラム終了後、岡さんのいえ(上北沢3-5-7)にて懇談会を行います。(参加自由、別室)

311から3年余りが経ちました。
被災地の子どもたちは?大人たちは?まちは?コミュニティは?
私たちは知っているようで知らないことがいっぱいあります。
今、東松島市東名で震災後にパン屋を開業したお母さんと、
子どもを見てきたプレーリーダーの視点で
お話をさせていただきます。
災害という「波」が明日このまちに来たときに役立つように。

主催・お問合せ・お申込先 岡さんのいえTOMO
参加のお申し込み・その他お問合せは、
Eメールの方は okasannoie.tomo@gmail.com まで、お電話の方は 090-8332-7514
毎週水曜日 14:00~17:00には岡さんのいえでも無料お申し込みを受け付けております。
Eメールの場合は、件名に【7月12日参加希望】
本文に①お名前 ②お電話番号 ③お住まい(町名まで)をお書き添えのうえご連絡ください。

講師紹介

野田ますみさん、阿部恵さん
震災後の新東名にて、津波で被災した自宅を改装し、手作りのパンのお店「ぱぱいやぱんや」をオープン。子育てをしながら、毎週水曜日にお店を開いています。
震災当時、沿岸の東名にいた阿部さんと、海に囲まれた宮戸島にいた野田さん。お2人の体験の違いもお話いただけます。
*ぱぱいやぱんや
<https://ja-jp.facebook.com/papayapanya>

根本暁生さん
元鳥山プレーパークのプレーリーダーであり、現在は NPO 法人 冒険あそびせんだい・みやぎネットワーク プレーリーダー / 理事。仙台にて震災を経験。子どもと向き合い、復興支援の活動に従事されています。
*NPO法人 冒険あそびせんだい・みやぎネットワーク
<http://www.bouken-asobiba-net.com/>

岡さんのいえと東名について
東名は宮城県東松島市の中でも仙台湾沿岸に位置する地区で、311では津波により大きな被害を被りました。
岡さんのいえは、この地区で地域の皆さんが集まれるカフェ作りを手伝っている世田谷の団体「こちカフェ隊」の活動に参加しています。今年度はこの活動に加えて、世田谷での講演会や物産市などを企画して東名との交流の輪を広げてゆきます。
お気軽に足を運んで下さい。お待ちしております。

上北沢まちづくりセンター
京王線「八幡山」駅下車徒歩2分

岡さんのいえTOMO
TEL: 090-8332-7514
HP: <http://www.okasannoie.com/>
facebook: <https://www.facebook.com/okasannoie>
所在地: 世田谷区上北沢 3-5-7
京王線「上北沢」より徒歩5分
南口を出て右へ進み、桜並木のななめ風の道へ入ります。
その道なりにまっすぐ、区民センターの先にあります。

東京での講演会～また、波がきたときに 2014年7月12日



東名の材料を使った
「ぱぱいやぱんや」の
ビスコッティを会場で販売



岩手県陸前高田市、宮城県南三陸
市、石巻市、東松島市の皆さん
(にじのライブラリー) が作った
布ぞうり販売



講演の様子
左から阿部さん、野田さん、
根本さん



保坂区長のご挨拶



ご来場者の皆様



終了後岡さんのいえでの懇親会

東京での講演会～また、波がきたときに

第一部ぱぱいやぱんや 阿部さん、野田さんのお話



災害時に子どもを持つ母親としての立場 お話いただきました。

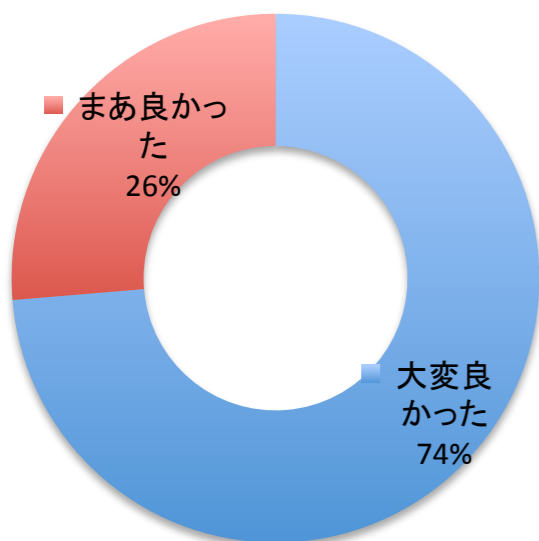


いただいた感想の一部抜粋



マニュアル本などとは違い、**実際に関東で何かが起きてしまった時に役立つお話**が聞けました。

アンケート結果から



大変辛い思い出を淡々と、とても分かりやすく語っていただき、**当時のお母さんが非常に厳しい状況下、どのように行動されていたかを今までよりも具体的に想像、推測させて頂くことができました。**素晴らしい判断力だと思います。



緊急時の子を持つ親として経験談が参考になりました。

なかなか聞けない当日の生々しい体験談、決してテレビ等では伝えていないことが聞けて良かったです。

東京での講演会～また、波がきたときに

第二部プレーリーダー根本さんのお話

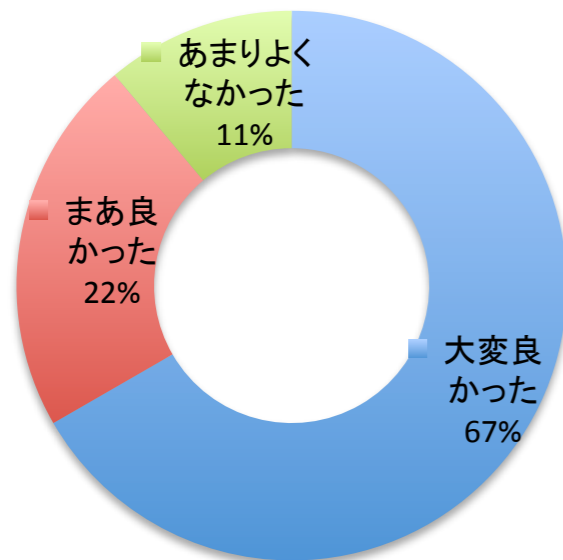


遊び場を運営するプレーリーダーとしての立場からお話いただきました。



いただいた感想の一部抜粋

アンケート結果から



「あそび場」の大切さ、ただテレビで震災の報道を観ていただけでは分からずにいたことを具体的に教えて頂く事ができました。災害時の対応において子どもをもっと中心に考えてあげたいと思われました。

子どもを取り巻く環境が震災によって大きく変わってしまったというのが、子ども遊びの現場にいらっしゃる根本さんのお話でよく分かりました。



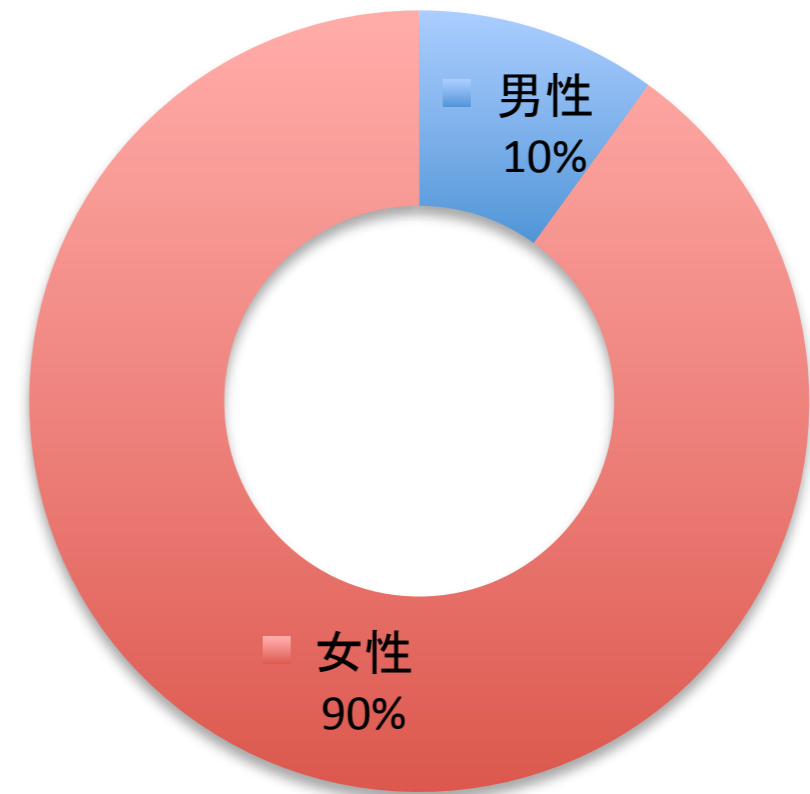
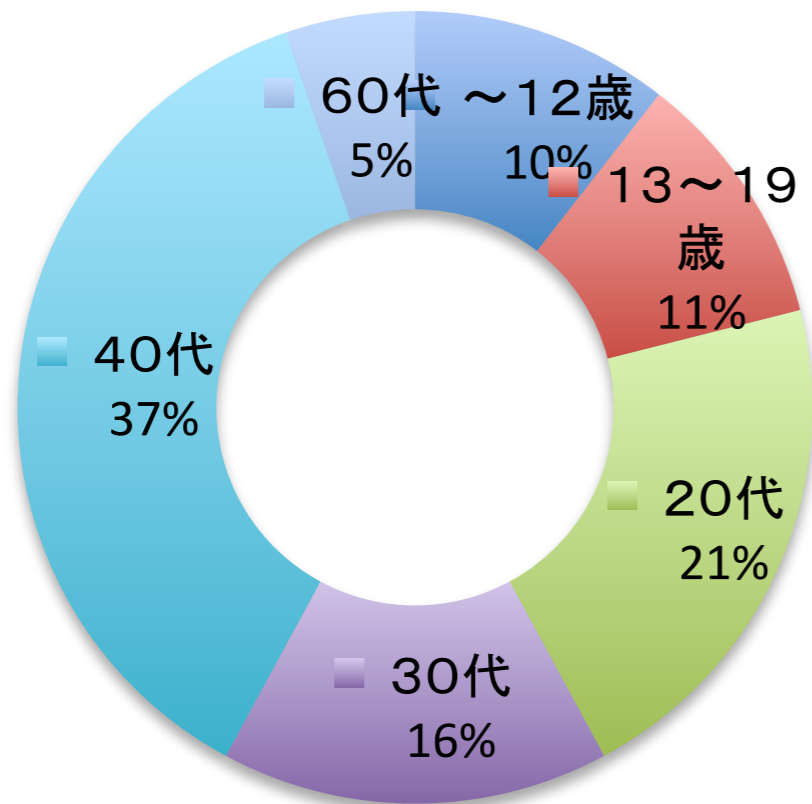
子どもが遊ぶことの必要性について考えさせられました。さまざまな写真や実体験をふまえたお話から「被災地のいま」や「私たちにできること」を考えさせられました。

東京での講演会～また、波がきたときに アンケート結果



出席者：53名

参加者分布



新東名と宮戸の夏祭りに参加 2014年8月2日 & 8月9日

東名と宮戸で開かれる夏祭りに
こちカフェ隊と岡さんのいえチームで参加してきました。



岡さんのいえお絵かきワークショップ
子どもと大人が参加できる場



鉄ちゃんカフェ・
みちのくシリーズ@宮戸

新東名と宮戸の夏祭りに参加

2014年8月2日 & 8月9日

現地の課題として、「**子どもの心のケアや男性のコミュニティの場への参加率の低さ**」があると伺っていたこともあり、岡さんのいえチームは、世田谷でも実施している子どもや大人男性でも楽しめるツールを持って東名と宮戸の夏祭りに参加しました。

皆で
絵を描こう

囲碁
教室

カード
ゲーム

鉄道
模型
運転会

新東名の夏祭りに参加～こちカフェ隊とのコラボ

2014年8月2日



岡さんのいえメンバーによるお絵かき、囲碁、カードゲームのワークショップ



こちカフェ隊の
ジューススタンド



夜は東名の皆さんが作ったカキ殻のキャンドルが
かつて仙石線のあった場所を灯しました。

宮戸の夏祭りに参加

2014年8月9日

あいにくの雨でしたが、色々な方に岡さんのいえでおなじみの鉄ちゃんカフェを宮戸で開き、たくさんの方にご参加いただきました。



Nゲージを運転しよう！！

東京での講演会第2回～なみのあとのまちから

2015年1月17日

世田谷出身で東日本大震災以降、東松島市にて復興団体プラスネオを立ち上げ現地で支援活動に従事される中村健司さんと、東名にてコミュニティ・カフェの運営をされてきた平田ひとみさんより**震災後のコミュニティ作りや防災の知恵**などをお話いただきました。

出席者：49名



岡さんのいえ
いま、震災を語る
vol.2

なみのあとのまちから

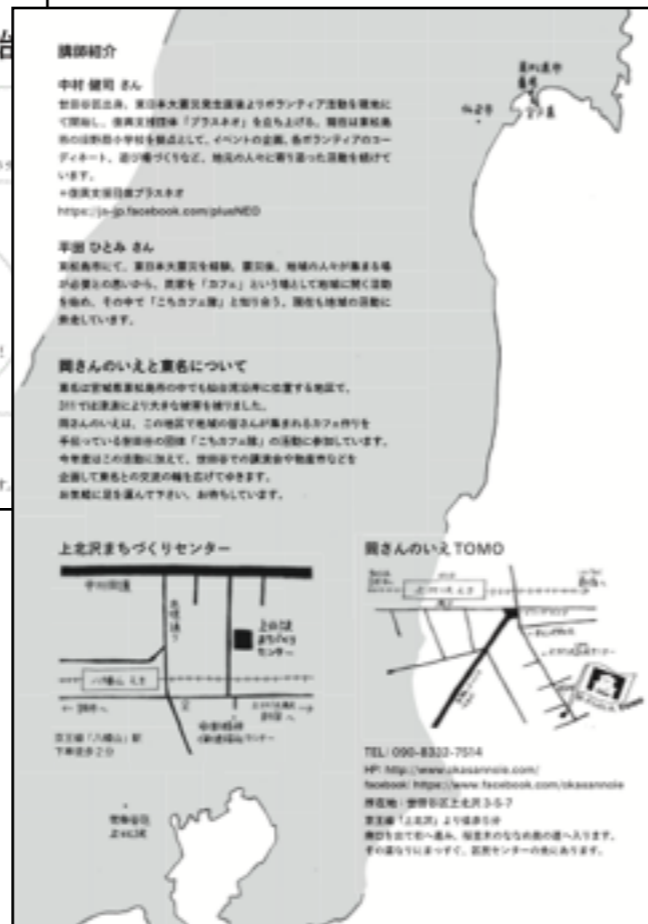
—宮城県東松島市と世田谷の今—
ゲスト 中村健司さん、平田ひとみさん

1月17日(土) 12:30 開場 13:00 開始

第1部 講演会 上北沢まちづくりセンター 地下会議室 世田谷区上北沢4-32-9 03-3481-4474 地下鉄有明線 定員：50名(申込済) 参加費：500円 ※4名まで同伴可 ※お申し込みは必須	第2部 懇親会 岡さんのいえ TOMO 世田谷区上北沢3-5-7 03-3481-4474 地下鉄有明線 定員：50名(申込済) 参加費：500円 ※4名まで同伴可 ※お申し込みは必須
--	--

東日本大震災から4年が経過しようとしています。今、現地ではどんなことが必要で、何がおきているのか、私達には一輪に何が出来るのか、できないのか、この、4年近い時間を復興支援にあたってきたプラスネオの中村健司さんと東松島新築地区に暮らし、津波後のコミュニティの再生に尽力してきた平田ひとみさんをお招きし、お話を伺います。

※主催・お問合せ・お申込先 okasannoie.tomo@gmail.com
岡さんのいえ TOMO ☎090-8332-7514
世田谷区上北沢14-00-17(0)には岡さんのいえでもお申し込みを受け付けます。



講師紹介

中村 健司 さん
世田谷区出身、東日本大震災発生後よりボランティア活動を開始。復興支援団体「プラスネオ」を立ち上げ、現在は東松島市の復興拠点学校を拠点として、イベントの企画、各種ボランティアのコーディネート、遊び場づくりなど、地元の人々に寄り添った活動を続けています。
※復興支援団体「プラスネオ」
<https://ja-jp.facebook.com/plusneo>

平田 ひとみ さん
東松島市にて、東日本大震災を体験。震災後、地域の人が集まる場が必要との思いから、東松島「カフェ」という場として地域に貢献を始め、その中で「こもろカフェ」と知り合う。現在は地域の活動に参画しています。

岡さんのいえと東名について
東名は宮城県東松島市の中でも仙台湾沿岸に位置する地域で、2011年は津波により大きな被害を受けました。岡さんのいえは、この地域で地域の皆さんが集まれるカフェ作りを手がけている東松島の団体「こもろカフェ」の活動に参加しています。今年度はこの活動に加えて、世田谷での講演会や動画作りなどを企画して東名との交流の輪を広げていきます。お気軽に足を運んで下さい。お待ちしております。

上北沢まちづくりセンター
〒158-8501 世田谷区上北沢4-32-9
TEL: 03-3481-4474
地下鉄有明線

岡さんのいえ TOMO
〒158-8507 世田谷区上北沢3-5-7
TEL: 090-8332-7514
HP: <http://www.okasannoie.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/okasannoie>
所在地：世田谷区上北沢3-5-7
東名線「上北沢」より徒歩5分
降りて出て右へ進み、緑芝のなるお家の横へ入ります。その裏手になります。復興センターの奥にあります。

東京での講演会～なみのあとのまちから

2015年1月17日



会場となった
上北沢まちづくりセンター



東名在住でコミュニティ
カフェを手がける平田さん



東名の「ぱぱいやぱんや」
さんの大豆ビスコッティ



東名の皆様がこの会のために
ご用意くださった牡蠣の蝋燭



世田谷出身で支援活動をする
中村さんと保坂区長



終了後の懇親会

東名での「あそぼうパン」イベント

2015年3月21日

今年で3回目となる「あそぼうパン」イベント。復興支援団体プラスネオさんに火おこし、パン生地は現地の「ぱぱいやぱんや」さんにご協力いただくなどコラボレーションで会を開催しました。



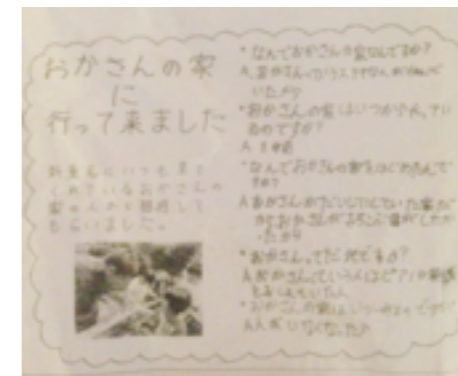
助成金対象イベント以外にも色々な形で交流をしています。



東名の夏祭りで始めたお絵かき巻物を岡さんのいえでも引き続き作成。



東名の阿部さん、野田さんがお子さん連れで上京し、岡さんのいえで流しそうめん大会



かぜの子新聞
(子どもたちが岡さんのいえ訪問した記事)

助成金対象イベント以外にも色々な形で交流をしています。



東名の皆さんに新鮮なウニや牡蠣を送っていただきました！

広報誌の作成

これまでのイベントを紹介する広報誌の作成



11月上旬と3月下旬に
完成

目的

- ・ その場に参加できなかった住民にもイベントを通して得た知見を共有し、被災地・災害対策への理解や関心を広める、記録として残す。
- ・ 新東名地域住民にも世田谷ならびに岡さんのいえへの理解と関心を広める。

広報誌の作成



今回の震災は島である宮城の被災者がはつきり表れていました。



「また、波がきたときに」
いま、震災を考える講演会

この3年が過ぎた宮城県の皆さんが震災当時の様子を共有する場を持ちました。東松島市東名地区で震災後に「ばいばいばんや」というパンの店を開いた野田ますみさんと阿部恵さん、仙台市で被災あそび場に関わる根本誠生さん、普通に通っていた人々の壮絶な体験は明日の私たちにきつと役に立つものです。

「なみ」が静かに来た
野田ますみさん

あの日、宮城島の震災にいました。午後、の休憩時間に地鳴りと激しい揺れ。年二度の避難訓練とおりにおもんなと高台に避難しました。古い土地柄でみんなの顔は知りだつたの

で、声をかけあい、助まらしい、これが命を助けたのだと思います。4時に波がきました。雨が雪に変わる寒さ。島と本土を繋ぐ橋は壊れ海沿いの道路もえくられました。不思議なくらい静かでした。決される無人の車から走り寄りクラクションだけが耳に残りました。

宮城のものが、平野に来た。なみ。根本誠生さん

仙台は平野で流るものがなく、海水が膨らみ広がりました。東京でいうと羽根からの波が浜辺あたりまで押し寄せた距離です。

地震から半波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

被災者から津波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

被災者から津波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

被災者から津波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

被災者から津波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

被災者から津波まで1時間以上ありましたが、家族を捜していたり、大丈夫だといつて逃げなかつた方々が犠牲になってしまいました。

宮城県東松島市東名とつながり続けま〜す

「また、なみ、来る？」
東松島市東名での子ども一言が、つながり続けていきたいと思ったきっかけでした。7月には講演会をしていただき、普通のお母さんや子どもの現場に携わる人の壮絶な体験を語っていただきました。その経験は東京の災害時には役立つ知恵に満ちたものでした。夏祭りのお手伝いにも行きました。お母さんと子ども達も上京。岡さんのいえで流しそうめんをして、にぎやかに暑い夏の日を過ごしました。何気ない日常の交流を、東京の小さいえと東名でこれからも心がけていきたいと考えています。(オーナー・小池)

「また、波がきたときに」
講演会
画面をご覧ください

東名の夏祭り 8月2日(土)
夏祭りに岡さんのいえチームが参加してきました！大きな模造紙に東名の子どもたちが思い思いの絵を描いていくワークショップ、囲碁教室やカードゲームなど、楽しい交流のひとつとなりました。(見守り隊員・楢谷)

宮戸島の夏祭り 8月9日(土)
初めてのボランティア活動。駐車場の案内・整理、露店のスタッフなどを通してたくさんの東松島の人と交流できました。地元のお話をしてくださったり、生きたウニをご馳走して頂いたり、親切な心くばりがとても嬉しかったです。(東京工科大学・星名さん)
出張「鉄ちゃんカフェ」のNゲージは子ども達に大人気でした



被災された方から聞いた、持ち歩くとよいもの

鮎
口の中に入れてしまった異物を唾液で流すことができる。糖分が栄養補給にもなる。

紙おしぼり
手や身体をふくだけではなく、口内衛生としても活用可能。

コンビニのポリ袋
水を運んだり、足にはいて体温を保つのに役立つ。この袋に、鮎やおしぼりをまとめて入れておくとよい。

お風呂にラップをかければ、水を使わずにすみます。ラップは紐の代わりにもなります。

*ばいばいばんや
震災後の東松島にてオープンした、津波で被災した自宅を改装した手作りパンのお店。毎週水曜日にお店を開いています。
<https://ja-jp.facebook.com/papayapanya>

*NPO法人 復興あそび場 - せんだいみやぎネットワーク
<http://www.bouken-asobiba-net.com/>

活動を通して得られたもの

岡さんのいえから提供できた「支援」

- 多世代の男女を入りやすい形での
コミュニティイベントの知恵
- 世田谷育ちのプレーリーダーの活動を支援
- 世田谷区住民の被災地への理解・関心高め
支援活動へ繋げる



東名からいただいた「知恵」

- 当事者の語る震災についての現実
- 普段から意識すべき有事の際の知恵
- 復興段階で意識すべきポイント



活動協力体制

主催

岡さんのいえ見守り隊員

10名前後

協力者・団体

NPO法人 冒険あそび場-
せんだい・みやぎネットワーク

平田ひとみ氏

中村健司氏（復興支援団体プラスネオ）

ぱぱいやぱんや
（阿部氏・野田氏）

5～6名前後

新東名・仙台在住

こちカフェ隊

コミュニティ
プレイス研究会

世田谷区
若者支援課

東京大学
牧野ゼミ

東京工科大学インターン学生

15名前後

東京在住

イベント参加者

新東名地区住民

世田谷・上北沢周辺住民

世田谷区への提言



世田谷の災害対策・復興まちづくりへの提言

提言 1

有事の際・有事後の
子どもたちの心のケアを

有事で心の余裕をなくす大人達。

心を閉ざす子どもたち

→子どもに寄り添う体制を。

世田谷の災害対策・復興まちづくりへの提言

提言 2

高齢者を含む多世代が 交流しやすい場作り

震災時には助かってもらったとしてもその後、孤独死される方も。日常時から多世代が交流しやすい「きっかけ」ができる場を設け、有事やその後もその交流の場が機能するように。

世田谷の災害対策・復興まちづくりへの提言



提言 3

震災を「ヒトゴト」としないためにも、被災地と世田谷が日常的に交流できる仕組み作りを。





ありがとうございました。